

地域を、町を、山形を、そして日本を元気に！！

2018年3月1日

第26号



ちかこしんぶん

周子新聞

発行：志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会

(事務局：西川交流センターあいべ内) Tel.0237-74-3131

〒990-0703 山形県西村山郡西川町大字間沢 280

映画「いしゃ先生」全国へ発信

全国の約3万2千人を超える方々から鑑賞

多くの方々のご支援、ご協力により完成した劇場映画「いしゃ先生」は、平成27年11月7日から山形県内の各映画館で上映が開始され、翌年1月9日からは東京有楽町での上映を皮切りに全国17カ所の劇場で上映が行われました。

山形県内では11月7日の上映開始から最終上映が4月1日までの大変なロングラン映画となり、県内だけで約2万1千人の方々から鑑賞いただきました。

県外では、全国17カ所での劇場上映をはじめ全国保険医団体連合会の都道府県支部などによる自主上映が30カ所で行われ、鑑賞者の総数は約3万2千人以上にものぼっています。また、昨年2月8日には待望のDVDが発売されたほか、全国のレンタル店でも取扱いがなされことにより、それ以上の方々から鑑賞をいただいたことと思います。



平山あや
榎本孝明 / 長谷川初範
遠田有希子 / 星野真士 / 上野竜幸 / 渡辺大

甦らせる会の活動終了とお礼について

本会は、昭和初期に陸の孤島と呼ばれた大井沢地区で地域医療に生涯をささげた女医志田周子の生き様を町の宝として捉え、普及啓発活動や劇場映画の制作、上映広報などの取組みを行ってまいりました。

平成25年2月の設立以来、映画制作に対する協賛金として最終的に1,748件、39,000千円を超す募金が寄せられました。平成26年7月には映画制作移行を決定し、大江町、白鷹町、尾花沢市等から絶大な協力をいただきながら10月から11月にかけての秋ロケ、翌年2月に冬ロケを行う一方、これに先立ち、キャスト等のオーディション、ボランティアスタッフによる衣裳製作や撮影地の整備を行うなど手作りの映画制作を行ってまいりました。これらの地域づくり型映画制作の展開そのものが、西川町、さらに山形県を全国に発信する大きな力になることができたと考えております。

完成した劇場映画「いしゃ先生」は、貧困や無知の中で周子女医が医療に立ち向かう苦悩や奮闘の中に、現代にも続く地域医療の課題や重要性などを描くとともに、西川町の美しい自然や風景、食、地域の絆などを盛り込むことができたのではないかと思います。思い巡らしております。

このほど、本会の所期の目的を達成したと判断し、平成30年2月をもって活動を終了し、映画製作委員会からの配分金の管理等を行う清算団体に移行することにいたします。

本会の活動が引き続き町並びに地域の活性化のために引き継がれるよう、皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、これまでの物心両面でのご支援とご協力に深く感謝を申し上げます。

志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会収支状況報告

【収入】

平成30年2月現在

項 目	H25～28 決算額	H29 見込額	計	備 考
協賛募金	39,009,201	0	39,009,201	1,748 件(町内:965 件、町外:783 件)
町補助金	17,329,816	0	17,329,816	映画制作費補助、専従職員補助
製作委員会配分金	4,283,727	713,568	4,997,295	劇場映画配給収入等
その他収入	1,128,431	2,074	1,130,505	山形の宝資源活用化実行委員会繰入金等
計	61,751,175	715,642	62,466,817	

【支出】

項 目	H25～28 決算額	H29 見込額	計	備 考
普及啓発費	3,653,838	32,982	3,686,820	活動諸費、HP 運営費ほか
事務局費	2,024,098	150,000	2,174,098	郵便料、専従職員賃金、旅費ほか
映画制作費委託料	51,800,000	0	51,800,000	
映画撮影協力費	1,414,928	0	1,414,928	
映画上映広報費	2,736,283	0	2,736,283	
計	61,629,147	182,982	61,812,129	

収入支出差引金額 654,688 円（見込額）は町に帰属することとします

全国保険医新聞の掲載記事（読者投稿）から

何人も等しく医療を

愛知県保険医協会 医師 下村 啓 さん

いしゃ先生こんにちは！映画で初めてお会いすることができましてありがとうございました。

志田周子医師の生涯を描いた映画「いしゃ先生」の大好きな言葉は、もちろん保健文化賞授賞式で語った「私の夢は、何人も等しく医者にかかれる世の中がくることです。（中略）なぜなら、命だけは平等だと思うから……（後略）」です。いしゃ先生の死の翌年に、待望の国民皆保険制度が誕生しました。いしゃ先生がその時に生きておられれば、どんなに喜んでいただろうでしょうか。

当時は、貧困・無知・偏見の時代で、いしゃ先生一人の犠牲による地域医療であったと感じました。いしゃ先生は食道癌で入院後、無医村となった村の将来を心配し、診療所に戻ることなく亡くなりました。いしゃ先生が往診途上でオリオン星を眺めて詠んだ歌碑があります。希望の星座に召されたのではないのでしょうか。

映画を見終わっていしゃ先生は、「野に咲く小花のように」目立たないが精一杯に生き抜いた生涯であったと思いました。



保健文化賞を手にする周子先生

西山にオリオン星座かかるをみつつ患家に急ぐ雪路を踏みて（昭和32年冬）

大井沢の夜はすばらしい。（略）特に美しいのはオリオン星である。夜空に刻みこまれたあの星座は確かに周子の星だと思うようになってきた。（『周子の生涯』から 著者鈴木久夫さん）

▷オリオンの歌碑は、旧大井沢小中学校の敷地内に設置されています。